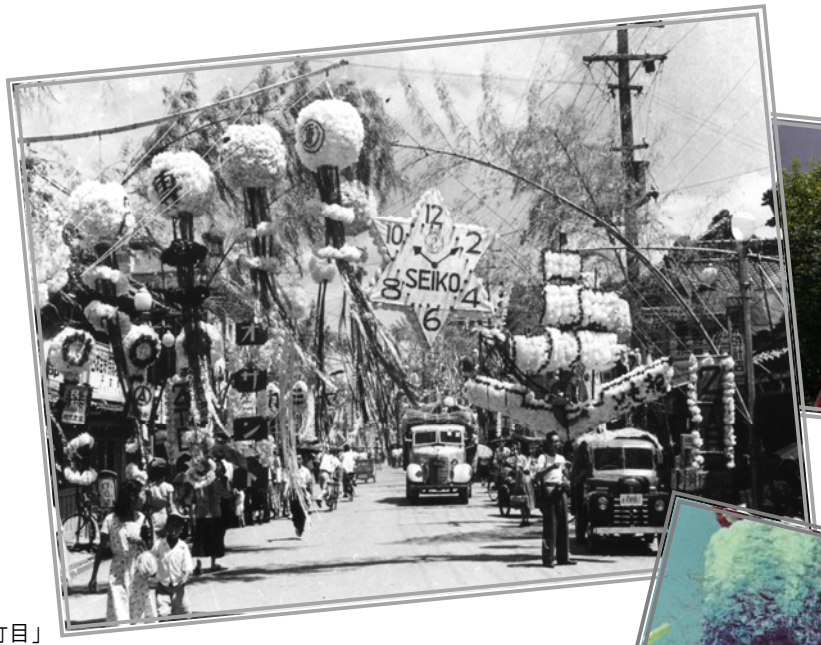
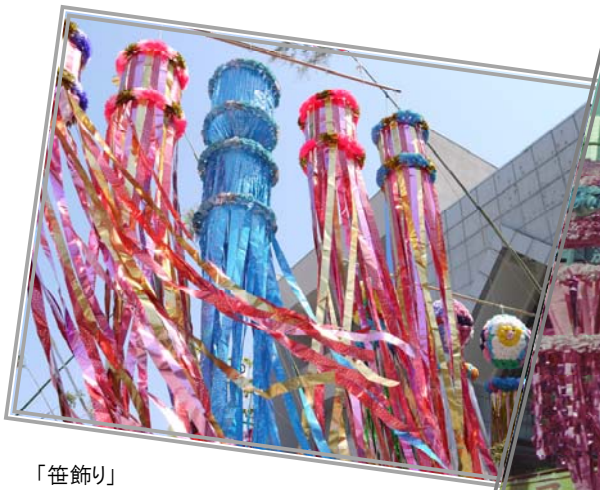
平成 28 年度 いわき総合図書館 企画展示

平七夕祭りの歩み

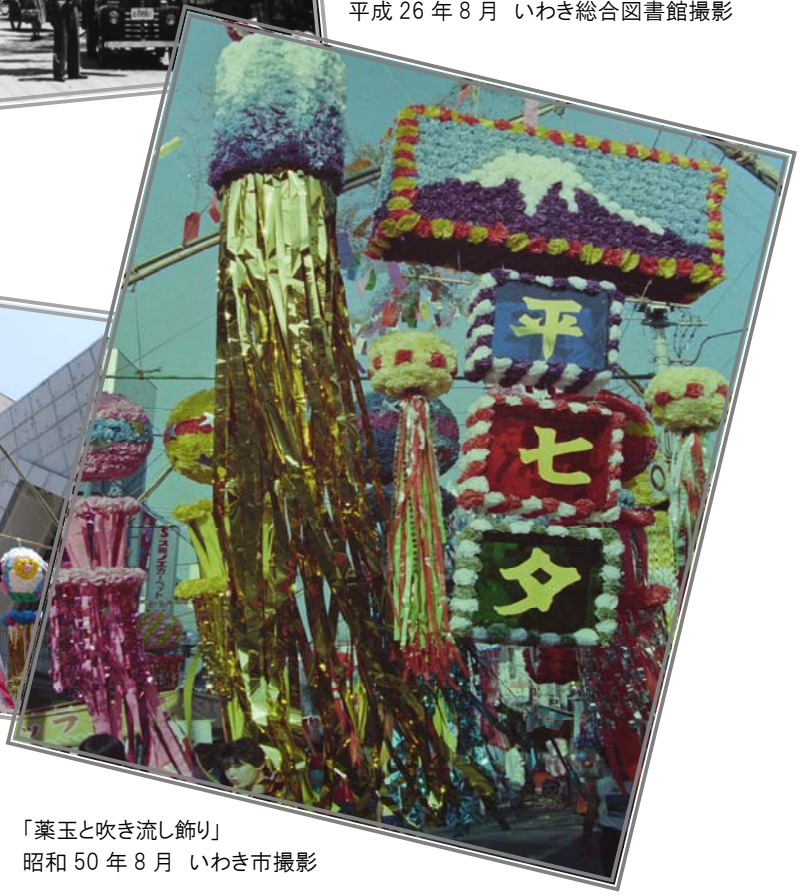


「平二町目」
昭 27 年 8 月 9 日 松本正平氏撮影、松本正夫氏提供

「笹飾り」
平成 26 年 8 月 いわき総合図書館撮影



「笹飾り」
平成 26 年 8 月 いわき総合図書館撮影



「薬玉と吹き流し飾り」
昭和 50 年 8 月 いわき市撮影

会期平成 28 年 6 月 25 日 (土) ～9 月 25 日 (日)

会場 いわき総合図書館
5 階 企画展示コーナー

いわき市立いわき総合図書館
いわき市平字田町 120 ラトブ 4・5 階
TEL 0246-22-5552
http://library.city.iwaki.fukushima.jp

ごあいさつ

織姫（おりひめ）と彦星（ひこぼし）の天の川の伝説は、日本最古の歌集『万葉集』の歌にも数多く取り上げられています。

秋風の　吹きにし日より　天の川
　　瀬（せ）にいで立ちて　待つと告げこそ

天の川　波は立つとも　我が舟は
　　いざ漕（こ）ぎいでむ　夜のふけぬ間に

また、七夕（たなばた）の日に笹飾りを立て、何ごとかを願い、祈る風習は、各家庭で、やはり、古くから行われています。

このような伝説や風習、行事を土壌（どじょう）とし、祭りやイベントとしての機能を大きくふくらませた七夕祭りが、仙台の地から伝えられ、いわき市平（たいら）で始まったのは、昭和の初めのことでした。

当初は、町なかの一つの店舗（てんぽ）や一軒の家庭など、仙台風の七夕飾りは「点」として始まりました。しかし、その後、それが複数の「点」になり、「線」になっていきました。

そして、昭和 9（1934）年、平の本町通りの路面がアスファルトで舗装（ほそう）されることになり、そのため、それまで行われていた伝統の「松焚（まつた）き」行事が開催できなくなり、それに代わるものとして、仙台風の七夕飾りに白羽の矢が立てられ、薬玉（くすだま）と吹き流しの壮大な飾りが通りを埋める七夕祭りが盛大に開催されることになったのです。

その後、戦争の影響により、昭和 13（1938）年から昭和 22（1947）年までは中断を余儀なくされましたが、昭和 23（1948）年には復活を果たし、その後、今日まで、平の七夕祭りは、その伝統を繋いでいます。

平の七夕祭りの歩みを振り返る今回の展覧会をご覧いただき、平の七夕祭りの移り変わりや七夕祭りが果たした役割、さらには、七夕祭りを支えた多くの人々の熱い思いなどについて、考えを巡らせていただければ幸いです。

なお、今回の展示会の開催に当たり、種々の調査を進めるなかで、平の七夕祭りは、仙台や陸前高田の七夕祭りとともに「みちのく三大七夕祭り」の一つに数えてもよいのではないかという思いを強くいたしました。

2016 年 6 月

いわき総合図書館館長　　夏井芳徳

平七夕祭りの始まりと歩み

昭和５年(1930)、ほとんどの家や店舗が笹竹に願いを書いた短冊を下げる七夕飾りを飾る中、平三町目の七十七銀行平支店では、にぎやかな七夕飾りの装飾が店頭を飾り、大きな話題になりました。

翌年の昭和６年(1931)には難波医院に飾られた仙台風の七夕飾りが評判になり、これを契機に、昭和７年(1932)から平三町目の有志が店頭での七夕飾りを始めました。

昭和９年(1934)、本町通りがアスファルトで舗装されることになり、それまで行われていた松焚き行事が中止となり、それに代わる行事として、七夕祭りが平全体の祭りとなっていきました。昭和 11 年(1936)からは商工会や青年団、平町、平駅なども加わり、平の七夕祭りは発展していきました。

平三町目交差点
（昭和 26 年８月７日、松本正平氏撮影、松本正夫氏提供）

昭和 13 年(1938)には戦時色が濃く平の七夕飾りは中止となりました。昭和 20 年(1945)に終戦を迎えましたが、戦後の紙や資材不足が続き、平七夕祭りが復活したのは昭和 23 年(1948)のことでした。また、この年から店頭装飾競技大会も同時に開催されました。

昭和 30 年代、平の七夕飾りは豪華さを増していきました。時代を反映した飾りや流行のキャラクターを造形したものが店頭を飾り、通りは竹竿に和紙や折鶴などをあしらった吹き流しで埋め尽くされました。ミス七夕コンテスト、じゃんがらコンクール、七夕飾りの飾り付けコンクール、協賛企業による笹飾りと様々なイベントも開催されました。

青年じゃんがら念仏踊りと平七夕
昭和 50 年頃　いわき市撮影

豪華絢爛七夕飾り
平成 10 年８月　　いわき市撮影

平成 18 年(2006)からは最終日にいわきおどり中央大会が開催されるようになり、多くの人でにぎわいました。商店街の各店舗や幼稚園、学校などが製作した笹飾りのコンテスト、フリーマーケット 、平一町目ゆかた祭り、街なかコンサート などのイベントも開催されました。

平成23年(2011)３月に発生した東日本大震災による被害は甚大で、その年の七夕祭りは開催が危ぶまれましたが、関係者の努力により開催され、26 万人の人出を記録しました。また、この年には東京電力福島第１原子力発電所の事故の影響で、いわき市内に避難されている富岡、大熊、双葉、浪江４町の皆さんが作った七夕飾りも登場しました。

通りをうずめる笹飾り　（昭和 28 年 8 月 17 日、松本正平氏撮影、松本正夫氏提供）

銀座通りの笹飾り(昭和 30 年代、飯沼晴男氏提供)

平(現いわき)駅前の玩具[おもちゃ]店「いづみや」の七夕飾り
(昭和 30 年代、飯沼晴男氏提供)

平三町目　（昭和 28 年 8 月 17 日、松本正平氏撮影、松本正夫氏提供）

平二町目（昭和 30 年頃、野木茂氏撮影）

風情豊かな平七夕おどり （昭和 44 年 8 月、いわき市撮影）

豪華絢爛七夕飾り（平成 10 年 8 月、いわき市撮影）

笹飾り(平成 26 年 8 月　いわき総合図書館撮影）

七夕の由来

七夕は、いくつかの伝説や風習、
行事が結びつき、時代を経て、
現在のような形になったと言われています。

織姫と彦星の物語
～中国の古い伝説～

むかし、天帝には織女という一人の美しい娘がいました。織姫は機織りの名手で、美しい布を織り上げ、天帝を喜ばせていました。毎日機織りに精を出し、遊ぶこともしない娘のため、天帝は働き者の牛飼い牽牛を引き合わせ、二人を結婚させました。

ところが、結婚後、二人は仕事もせず、遊んでばかり。これを怒った天帝は、二人を天の川の両岸に引き離してしました。その後、天帝は、一生懸命に働くことを条件に、一年に一度だけ、七夕の日に会うことを二人に許しました。こうして二人は、天帝の命を受けたカササギの翼にのって天の川を渡り、年に一度だけ会うようになりました。

日本にもこの伝説は伝えられ、『万葉集』の中にもたくさん歌われています。

お盆を迎えるための風習

お盆の前には、先祖を極楽浄土まで迎えに行く「藁馬」を小麦の藁で作り、馬小屋の屋根に投げ上げたり、門口に立てる風習がありました。また、身の穢れを清めるために、七夕の日に髪を洗ったり、子どもや牛、馬に水浴びをさせました。この行事は「ねむり流し」とか、「ねむた流し」と呼ばれるようになりました。

「乞巧奠」　～古代中国の宮廷行事～

古代中国の宮廷では、7月7日に「乞巧奠」という行事が行われていました。「乞」は願うこと、「巧」は上達すること、「奠」は供え物をして、おまつりをするという意味で、機織りが上手な織姫にあやかり、機織りが上手にと願うものでした。

この「乞巧奠」が奈良時代、遣唐使によって、日本に伝えられ、日本の宮中行事になりました。

「棚機」　～日本古来の行事～

むかしはお盆に先立ち先祖を迎えるために、布を捧げる行事「棚機」が行なわれました。この布は、少女が「機屋」に籠り、心を込めて織ったものでした。棚を作って機を織ることから「棚機」といわれ、機を織る少女は「棚機つ女」と呼ばれました。

その後、仏教が日本に伝わり、お盆を迎える行事が7月7日の夜、「七夕」に行われるようになり、その「七夕」が「棚機」と呼ばれるようになりました。

短冊に願い事を書き、つるす風習は江戸時代から

江戸時代、手習いをする人や寺子屋で学ぶ子どもが増えたことから、笹竹に短冊をつるして星に上達を願うようになりました。紙の原料となる「梶の葉」7枚に、サトイモの葉に溜まった夜露を集めて墨をすって、歌を書くと、字が上手になるともいわれました。

明治時代～昭和時代初期における七夕まつりの消長

地域 / 各状況 / 年	平		仙台	
	開催の盛り上がり	七夕まつりに関する出来事	開催の盛り上がり	七夕まつりに関する出来事
明治　6年(1873)				・新暦の採用
大正　8年(1919)		・七十七銀行平支店が開業		
大正15年(1926)				・商店街の一部が大売り出しで七夕飾りを実施
昭和　2年(1927)				・商店街が七夕まつりを実施
昭和　3年(1928)				・仙台商工会議所等が「七夕飾り付けコンクール」を実施、まつりが復活
昭和　5年(1930)		・七十七銀行平支店が店頭に七夕の飾り付けを実施		
昭和　6年(1931)		・仙台出身の難波医院長夫人が自宅前に仙台風の七夕飾りを実施		
昭和　7年(1932)		・三町目の商店有志が中心となり七夕飾りを実施		・七夕まつりの人出が15万人に達する
昭和　9年(1934)		・本町通り舗装により盆行事の松焚きが中止		
昭和10年(1935)		・七夕まつりが平商店街全体で実施		
昭和11年(1936)		・平商工会、平町などがまつりを支援		
昭和12年(1937)		・常磐線沿線の有名行事として紹介		
昭和13年(1938)		・戦時色が濃くなり、開催中止		
昭和14年(1939)				・戦時色が濃くなり、開催中止
昭和20年(1945)		・終戦		・終戦
昭和21年(1946)				・焼跡の中、52本の七夕飾りにより復活
昭和22年(1947)				・天皇巡幸にあわせて、5500本の七夕飾りアーチで歓迎
昭和23年(1948)		・七夕まつりが復活		

注）盛り上がりの大小（概念）

『平七夕まつり考』おやけこういち著
いわき地域学会　2014

>>> 参考文献 <<<

◆平七夕まつり考	おやけこういち/著	いわき地域学会	2014	K-386-ｵ
◆いわき市と七十七銀行	七十七銀行調査部/	七十七銀行	1989	K-338-ｼ
◆写真で綴るいわきのくらし	草野日出雄/	はましん企画事業部	1974	K-380-ｸ
◆『磐城誌料歳時民俗記』を読む	夏井芳徳/	纂修堂	2011	K-382-ﾅ
◆いわきの年中行事なぜなぜ	岩崎敏夫/	はましん企画	1978	K-386-ｲ
◆和ごよみで楽しむ四季暮らし	岩崎眞美子/著	学研パブリッシング	2009	386.1-ｲ
◆家族で楽しむ歳時記・にほんの行事	近藤珠實/監修	池田書店	2007	386.1-ｶ
◆7月のえほん	長谷川康男/監修	PHP 研究所	2011	児 386-ｷ-7
◆日本の心を伝える年中行事事典	野本寛一/編	岩崎書店	2013	児 386-ﾆ
◆「和」の行事えほん　1　春と夏の巻	高野紀子/作	あすなろ書房	2006	児 386-ﾀ-1

平七夕祭りの歩み

平成 28 年度　企画展

2016 年 6 月 25 日　発行
編集　いわき市立いわき総合図書館
発行　いわき市立いわき総合図書館
福島県いわき市平字田町 120
〒970－8026　☎22－5552